特集　ものづくりの基盤を支える素形材産業

第二十三回素形材月間記念式典祝辞

経済産業省　大臣官房審議官
（製造産業局担当）　及川　洋

第23回素形材月間記念式典の開催にあたり、一言お祝いを申し上げます。

本日、素形材月間記念式典が盛大に開催され、素形材産業技術賞をはじめ、栄えある表彰を受賞された皆様方の、輝かしい功績に敬意を表し心からお慶び申し上げます。

また、受賞の方々を日頃から支えてこられたご家族の皆様、同僚の皆様をはじめ、ご列席の方々に対しても、心からお祝い申し上げます。

素形材産業技術賞は、本年で33回目を数えます。今年度、各賞を受賞された技術も、究機関と密接に連携して、2つの成形手法を組み合わせた複合成形技術に強い地方公設研、産学官の枠を超えて、ご貢献頂くことを切にお願い申し上げます。

最後になりますが、関連業界の益々のご発展、皆様方の一層のご健勝を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

（平成29年11月10日）

素形材産業技術賞
品質の向上、性能の高度化、生産の効率化
ニーズに対応したすばらしい技術ばかり

経済産業省では、素形材産業の活性化を図ることと、素形材及び「ものづくり」の重要性を一般に普及・PRすることを目的に、毎年11月を「素形材月間」として開催しており、昨年23年目を迎えた。一般財団法人素形材センターでは昨年11月10日（金）、平成29年度「第23回素形材月間記念式典」を機械振興会館大ホール（東京都港区）において経済産業省、素形材関連団体等の来賓をはじめ、多数の参加者を得て開催した。式典は横川浩素形材センター会長の挨拶の後、素形材産業技術賞表彰、素形材産業優良従業員表彰が行われた。経済産業省及び及川大臣官房審議官（製造産業局担当）及び関連団体を代表して、日本金属熱処理工業会の原会長が祝辞を述べた。特集に当り、経済産業省の岡本素形材産業室長に国産業の現状と課題を伺った。

（聞き手／本紙代表・高橋　常郎）

経済産業省
製造産業局
素形材産業室長
岡本　繁樹氏

素形材産業の現状と課題

わが国の素形材産業は、自動車、造機、産業機械をはじめ、幅広い製造業に対し、品質、コスト、納期のいずれの面でも高水準の製品を提供しており、日本のものづくりの基盤産業です。各企業は、世界トップクラスの技術力だけでなく、高品質な製品を納期までに長期間にわたり納め続けることができるという点での極めて高い工場・生産管理力があります。

当室が開催した研究会「稼ぐ力研究会」は、2017年3月に報告書をとりまとめました。素形材産業は業界関係者、大学をはじめとする各界と連携し、様々な中小企業の先進事例、経営改善事例などの共有を進め、そこから新たな取組のためのヒントを得て頂き、今後も高い技術力を有してビジネスを展開していく事が大切だという方向を確認しました。

一方で、国内需要の縮小や、エネルギーコストの高止まり、取引構造上の課題、働き手不足など、我が国における事業環境の面では、引き続き様々な課題につながっていない現状にあります。素形材産業も中小企業の多い産業ですが、中小企業を元気にするのは経済産業省の使命です。取引環境を改善し、収益を増やしていきたいと考えています。

2016年に出された「世耕プラン」は、三つの柱で中小企業を元気にしようというものです。一つは、発注企業は手形支払いを極力現金支払いにしていきましょう、というものです。

こういった地道な努力が素形材企業の収益を高め、技術力・競争力がさらに強まり、結果、海外に負けない日本のものづくりを維持・発展させていくと思います。

取引環境の改善には、大企業の利益は右肩上がりなのに中小製造業は横ばいと、利益の管理について行動を起こしました。型の管理は素形材産業にこだわらず中小企業全般の課題です。当室が中心になって2017年1月より「型管理に向けたアクションプラン」を検討してきました。日本自動車工業会、日本自動車部品工業会、自動車産業に関係の深い鋳造、鍛造、ダイカスト・金属プレスなどの素形材業界の代表については、発注者は不当な原価低減を要求しない。二つ目は、型の管理は発注企業と受注企業できちんとルールを決めて行う。三つ目は、発注企業は手形支払いを極力現金支払いにしていきましょう、というものです。

自動車産業に関係の深い鋳造、鍛造、ダイカスト・金属プレスなどの素形材業界の代表については、発注者はそれぞれの業界でどのように進めるかを検討していただきました。結果、自動車のセットメーカー、部品メーカー、素形材企業が、お互いにお互いの行動を確認し合うことができました。素形材産業の最大の取引先である自動車業界と型管理のアクションプランを作成できたことは大きな前進です。この動きを他の業界にも繋げは型の管理について契約書を結ぶことが望まれます。

取引環境の改善には、いろいろな取り組みがありますが、まずは型の管理について行動を起こしました。型の管理は素形材産業にこだわらず中小企業全般の課題です。当室が中心になって2017年1月より「型管理に向けたアクションプラン」を検討してきました。日本自動車工業会、日本自動車部品工業会、中国、米国の3か国が対象でした。

ブラジルミッションは5月に素形材企業の方々と行いました。目的は人材確保です。日本の働き手不足は深刻ですので、現地で日系人を対象にした合同就職面接会を開きました。採用に至った例もあり、今回協力して頂いた人材派遣会社は、ブラジルでの採用活動はビジネスが成立すると判断され、来年度以降も独自で行っていくとのことです。

10月の中国ミッションは、日本の素形材企業が中国で活躍している日系、中国系、香港系、台湾系素形材企業（日系、中国系、香港系、台湾系）と新たな技術開発、新たな環境対策等で連携できる工夫があるのではないか、ビジネスとして発展できる可能性があるのではないか、そういった問題意識で実施しました。

米国ミッションは今年1月、シリコンバレーに行きます。今回で3回目です。シリコンバレーの企業による試作品に係る発注を獲得すべく、現地に根を張って頑張って試作加工を行うという企業を選抜して行きます。

政府は女性や高齢者の活躍を方針として掲げていますが、生産現場においてIoTやロボットの活用が進めば、その流れにもっと進んでいくでしょう。

日本は製造現場で女性や高齢者も活躍しますので、適切に中小企業庁と連携し取り組んでいく必要があります。日本が先駆けて進めていく事に意義は大きいと思います。（談）

自動車業界と型管理のアクションプラン作成

思います。

政府の統計によると、大企業の利益は右肩上がりなのに中小製造業は横ばいと、利益につながっていない現状にあります。素形材産業も中小企業の多い産業ですが、中小企業を元気にするのは経済産業省の使命です。取引環境を改善し、収益を増やしていきたいと考えています。

2016年に出された「世耕プラン」は、三つの柱で中小企業を元気にしようというものです。一つは、発注企業は手形支払いを極力現金支払いにしていきましょう、というものです。

こういった地道な努力が素形材企業の収益を高め、技術力・競争力がさらに強まり、結果、海外に負けない日本のものづくりを維持・発展させていくと思います。

取引環境の改善には、いろいろな取り組みがありますが、まずは型の管理について行動を起こしました。型の管理は素形材産業にこだわらず中小企業全般の課題です。当室が中心になって2017年1月より「型管理に向けたアクションプラン」を検討してきました。日本自動車工業会、日本自動車部品工業会、中国、米国の3か国が対象でした。

ブラジルミッションは5月に素形材企業の方々と行いました。目的は人材確保です。日本の働き手不足は深刻ですので、現地で日系人を対象にした合同就職面接会を開きました。採用に至った例もあり、今回協力して頂いた人材派遣会社は、ブラジルでの採用活動はビジネスが成立すると判断され、来年度以降も独自で行っていくとのことです。

10月の中国ミッションは、日本の素形材企業が中国で活躍している日系、中国系、香港系、台湾系素形材企業（日系、中国系、香港系、台湾系）と新たな技術開発、新たな環境対策等で連携できる工夫があるのではないか、ビジネスとして発展できる可能性があるのではないか、そういった問題意識で実施しました。

米国ミッションは今年1月、シリコンバレーに行きます。今回で3回目です。シリコンバレーの企業による試作品に係る発注を獲得すべく、現地に根を張って頑張って試作加工を行うという企業を選抜して行きます。

政府は女性や高齢者の活躍を方針として掲げていますが、生産現場において、IoTやロボットの活用が進めば、その流れにもっと進んでいくでしょう。

日本は製造現場で女性や高齢者も活躍しますので、適切に中小企業庁と連携し取り組んでいく必要があります。日本が先駆けて進めていく事に意義は大きいと思います。（談）

輝かしい未来には
素形材産業が必要
人に優しい働く環境に整備
同業種・異業種との連携を

日本金属熱処理工業会
会　長
原　敏城

本日の記念式典における表彰式では、素形材産業技術賞並びに素形材産業優良従業員表彰対象に、素形材産業に貢献して頂き、素形材を広く認知して頂ける機会を作って頂きました事に心から感謝申し上げます。

また、我が国の素形材産業は品質、性能及び生産量・生産金額でも世界のトップクラスを維持しております。

そして、素形材産業がサポーティング・インダストリーと言われているのは、我が国のものづくりの基盤であり、「稼ぐ力」を「ものづくり」として長年基礎から支えてきたからです。しかしながら、国民の皆様に直接目に触れる機会が少ないとも事実であります。

この様な環境下で、毎年素形材月間を開催して頂き、素形材を広く認知して頂ける機会を作って頂きました事に心から感謝申し上げます。

一つ目は、素形材産業を広く世の中に認知して頂くことです。先程も申し上げました様に、素形材産業無しでは世の中は成り立ちません。我が国が成しえてきた過去と、今後達成させ輝かしい未来には、必ず素形材産業が必要です。素形材産業を広く認知して頂くための取り組みは、産官学に共通の認識として取り組んで頂く必要があると考えております。

二つ目に、男女年齢を問わず様々な方々に素形材産業に魅力を感じてもらい、多くの人が集まる環境を構築する事です。その為には、働く環境の整備をソフトハード共に更に磨いていかねばなりません。働く方改革を目指す為にAIやロボットを用い人に優しい環境創造を行うと同時に、働く全ての人のキャリア・アップに繋がる教育制度の拡充も求められると考えます。

三つ目に、様々な形の連携を模索する事です。現在は、高度経済成長時代の様に仕事が溢れている訳ではありません。故に厳しい環境下で仕事を確保していくためには、オンリーワンの技術を持つ取り組みと同時に、様々な相手と「出会能を切っていけば良いのでしょうか、もちろん、答えは一つではなく、また提出す試みが必要だと考えます。素形材産業内における同業種の連携、また前後工程を含むお隣さん同士の連携、更には異業種の連携なども組み合わせは無限にあります。次に繋がる「何か」を生み出すためには、連携する相互企業の「考え方」だけでも学び合う事も有効ではないでしょうか。

以上、私の思いを申し上げました。とても、このたび表彰を受けられた皆様に限らず全ての素形材産業に携わる方々に、お願いがあります。長年業界を支えてこられた皆様のお力を是非今後も素形材産業に貸し頂く事です。

こういった状況下で、我々素形材産業はどうあるべきか、そして「出会い」、そして「気づき」新しい「イノベーション」を生み出す試みが必要だと考えます。素形材産業内における同業種の連携、また前後工程を含むお隣さん同士の連携、更には異業種の連携なども組み合わせは無限にあります。次に繋がる「何か」を生み出すためには、連携する相互企業の「考え方」だけでも学び合う事も有効ではないでしょうか。

以上、私の思いを申し上げました。とても、このたび表彰を受けられた皆様に限らず全ての素形材産業に携わる方々に、お願いがあります。長年業界を支えてこられた皆様のお力を是非今後も素形材産業に貸し頂く事です。

現在は、過去の積み重ねであり、未来はその延長線に過ぎません。私たちの素形材産業を、今まで発展して参りましたように、この荒波を乗り切り、変化し更なる高みへ発展して参りましたが